SS 特講Ⅰ・Ⅱ　「北海道大学臼尻水産実験所巡検」

８月３日（火）・４日（水）の二日間、ＳＳ特講Ⅰ・Ⅱの活動の一環として、北海道大学臼尻水産実験所の巡検を実施しました。

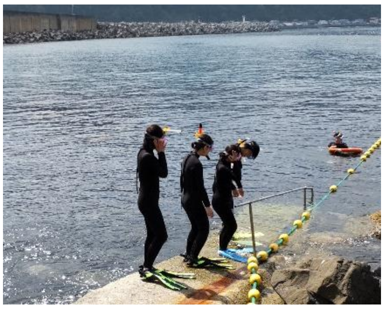
▶ 臼尻周辺の環境や魚種の査定などに関する講義

午前中最初は北海道大学臼尻水産実験所の宗原弘幸教授より、北海道および臼尻周辺の環境や生態系などについて地域産業や生物学、水産学など様々な視点からご講義いただきました。臼尻周辺は寒流と暖流の混合域にあたり、季節変動によって多種多様な生物を見ることができるというお話もうかがい、午後の海中観察に向けて期待が高まりました。

▶ ブリの観察と解体実習

講義の後は近海で水揚げされたブリを目の前に、その体のつくりや生態についてご説明いただきました。観察したあとは宗原教授の手さばきを手本にして代表生徒がその場でブリを捌き、昼食休憩ではお刺身としてふるまわれました。午前の講義の中で、近年北海道でブリの水揚げ量が増加傾向にあるという話を聞いた生徒たちは、北海道の新たな海産資源の価値を体感し、多くの学びや気づきを得ることができた様子でした。

▶ 海中観察実習



昼食後はウェットスーツに着替え、まずはプールにてシュノーケリングの練習をした後、班ごとに海中観察に臨みました。生徒たちはウェットスーツの浮力に驚きつつも多くの海中生物を発見し、歓声を挙げていました。午前の講義の中で紹介されていた生き物が自然の中で生きる姿を目の当たりにし、改めて北海道の海の生態系や環境に対する興味関心を高めることができました。また、後半では海中でのエゾメバル釣りにも挑戦し、このあとの生態調査のサンプルとなる魚を釣り上げました。

▶ エゾメバルの体長体重測定と生態調査

海中観察後は自分たちが釣り上げたエゾメバルの体長体重測定を行い、釣り餌の違いによってどのような違いが生まれるのか分析を行いました。２つの標本データの平均値に有意差があるかどうかｔ検定を用いて分析する手法を学び、今後の活動に活かすことができるスキルを身につけることができました。

生徒たちは今回の巡検を通じて北海道の環境や地域産業への理解を深めるとともに、魚類の生態観察や魚種の査定実習などを経験し、大学の学問分野に触れることができました。今回得た学びや気づきを今後の活動に活かして行くことが期待されます。SS 特講では今後も幅広く課外活動を行い、先端科学に触れる機会を予定しています。